はじめまして

尾瀬をいとしむ会

尾瀬と歌を愛する仲間たち

２０１２年１０月尾瀬の旅／鳩待

尾瀬について

尾瀬は皆さんご承知の通り、群馬、福島、新潟、栃木の４県にまたがる山岳、高層湿原で、尾瀬ヶ原、尾瀬沼、燧ケ岳、至仏山を含む全域が国立公園特別保護地域であり、国の特別天然記念物に指定されています。尾瀬ケ原には四季それぞれに愛おしい景色があり、雪解けとともにミズバショウ、リュウキンカが咲き、季節の変化とともにシャクナゲ、ニッコウキスゲ、サワギキョウ、草紅葉が観光客の目を楽しませてくれます。点在する池塘には愛らしいヒツジグザやオゼコウホネも咲き、木道を散策するハイカーは飽きることを知りません。

ＣＤジャケット：絵・金井民子さん

入山者数の推移

その魅力にひかれて尾瀬を訪れる入山者は１９６０年代から増加し始め、１９９０年代中ごろには６４万人にも達しました。その後、やや減少傾向を見せ始めましたが、２０１１年の３・１１東日本大震災後は急激に減り、３０万人を割ってしまいました。東京電力福島第一事故による放射性物質汚染の風評被害がその原因と考えられています。

さらに特別保護地域の７割を保有する東京電力の維持管理費も大幅に削減される事態に及びました。

群馬県の対応

こうした状況の下、尾瀬国立公園の所有地全体の４割を占めている群馬県としては、環境森林部自然環境課に尾瀬保全推進室を特設して（財）尾瀬保護財団を中心に多面的な支援施策を打ち出しています。

その施策の一つとして尾瀬国立公園の素晴らしさ、世界遺産の一つとしても十分に価値ある貴重な自然環境を内外に宣伝することにしました。そのためにグラビア広告等による視覚的な訴えや音楽による聴覚的な訴えも有効だとしています。

たちあがった七人の侍

私たち、民謡・童謡を愛する７人（英保寛・北爪幸作・家冨一夫・新井美作・安斎紀代子・大嶋好子・金井民子）はかねてから集まっては歌うことを楽しんできましたが、その自称「七人の侍」は音楽の分野において尾瀬振興の一役を担うことができるのではないかと考えました。尾瀬の歌を歌うことを思いついたのです。

群馬県人による尾瀬の歌

「尾瀬」の歌と言えば直ぐに「夏の思い出」の曲が思い起こされます。昭和２５年に「ラジオ歌謡」として石井好子さんによって歌われました。また学校の授業で歌った経験がある方も多いのではないでしょうか。

しかしこれだけでは物足らないと考えました。群馬県人の作詞家と群馬県人の作曲家が作った「尾瀬の歌曲」が二曲あることをみなさんご存知でしょうか。「尾瀬にうたう」（千明市三郎作詞：北爪幸作作曲）と「尾瀬の旅」（樺沢友佳作詞：北爪幸作作曲）です。「尾瀬の旅」は５０年余り前にダークダックスのよって歌われたことがあります。七人は自分たちの持てる力を結集してこの二曲をＣＤ化しました。

会の発足

このＣＤを携えて県庁１７階の尾瀬保護財団におもむき、尾瀬の宣伝に活用していただきたいと申し出たところ趣旨を理解いただき、数日後には尾瀬の各小屋の特設コーナーにＣＤが並べられることになりました。これが２０１１年のことでした。

この状況をみて、ＣＤだけのボランティア活動にとどめずにさらに広く尾瀬の宣伝活動に発展させようと、２０１２年４月「尾瀬をいとしむ会」を結成しました。１００名近い会員が集まってくれました。

活動内容

現在、群馬県の内外会員総数約３００名。 会の事業としては東日本大震災（３・１１）のチャリティを含んだ「尾瀬の旅」と「歌う会」です。昨年は６月と１０月に尾瀬の旅を実施し、大勢の会員が参加しました。

今月、環境省より２０１２年の尾瀬入山者数が発表されましたが、それによると３２万人に達したそうで、私たちの取り組みが少しでもお役にたてたのではないかと少しだけ誇らしい思いがしました。みなさまの入会を心よりお待ちしています。

《文責・写真・資料提供：会長・英保寛》

作曲：北爪幸作さん（左）歌：英保寛さん（右）

尾瀬をいとしむ会

＜事業内容＞
１．定期総会
２．屋外イベント尾瀬の旅　年２回（春・秋）
３．屋内イベント山の歌・花の歌会　年２回
４．その他（役員会）　年４回

＜入会金＞　１０００円（永久会員）

＜事務局＞
〒371-0018 前橋市三俣町 1-25-9（安斎方）
TEL&FAX 027-231-3087
HP 「尾瀬をいとしむ会」で検索してください
E-mail　jimukyoku@ozeik.jp